

日本災害情報学会第 33 回学会大会 大会プログラム



令和 8(2026)年 10 月 23 日(金)～25 日(日)
会場：札幌市教育文化会館

◎10 月 23 日 (金) エクスカーション (事前申込者限定)					
◎10 月 24 日 (土)					
09:45		受付開始		[3F 305 前]	
10:15-12:00		口頭発表 (セッション1)		[A・B・C会場]	
13:00-14:30		ポスターセッション		[4F ギャラリー、402]	
14:40-17:40		公開シンポジウム		[小ホール]	
18:15-		意見交換会 (先着順)		[札幌グランドホテル GINSEI]	
◎10 月 25 日 (日)					
09:30		受付開始		[3F 305 前]	
10:00-11:45		口頭発表 (セッション2)		[A・B・C会場]	
12:45-14:45		口頭発表 (セッション3)		[A・B・C会場]	
10 月 24 日(土)			10 月 25 日(日)		
A 会場	B 会場	C 会場	A 会場	B 会場	C 会場
講堂	403 号室	305 号室	講堂	301 号室	305 号室

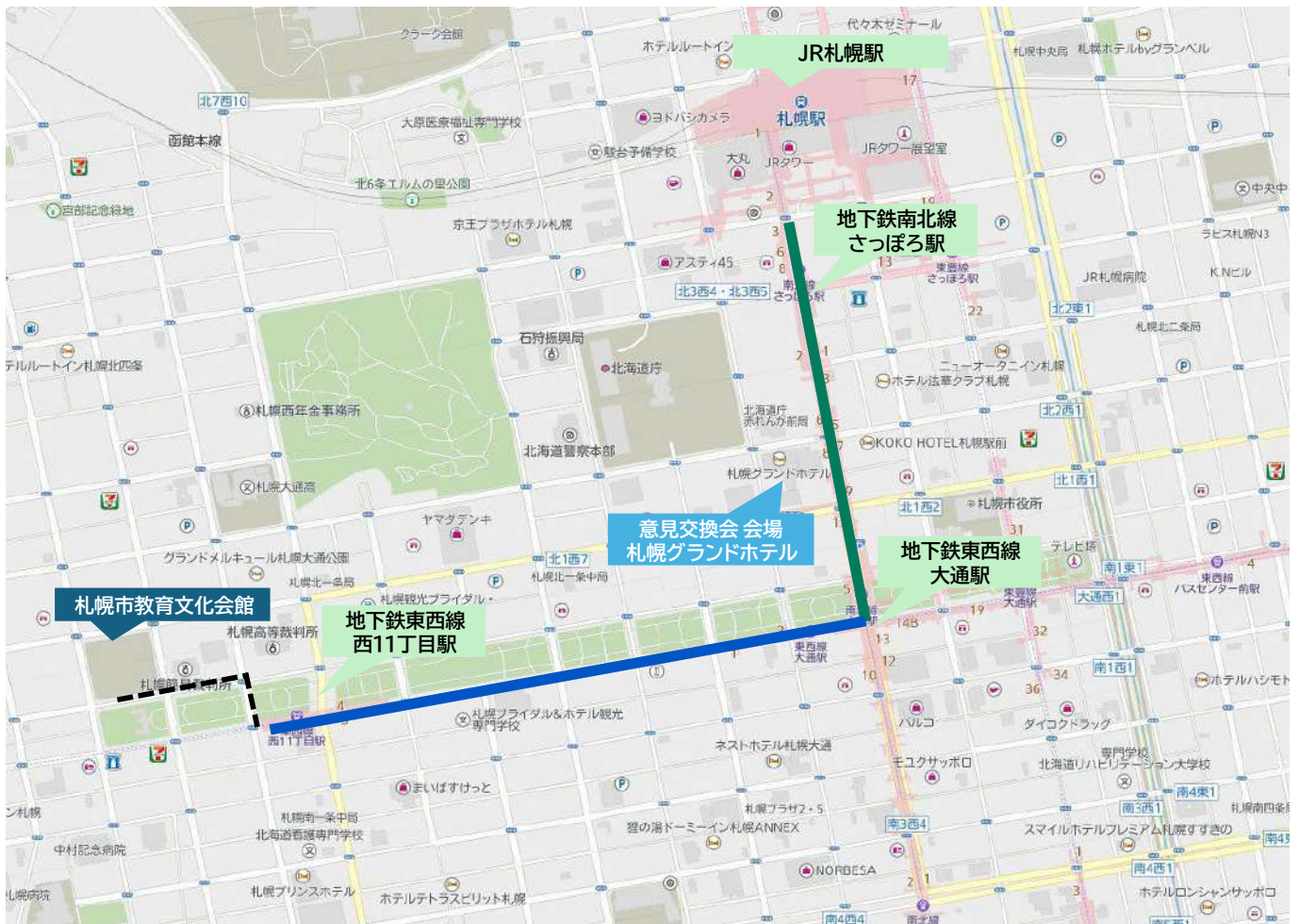
【参加方法・参加費など】

	正会員(名誉会員・賛助・購読会員含む)	学生会員	非会員(一般)	非会員(学生)
大会参加費	4,000 円	2,000 円	8,000 円	4,000 円

	社会人(社会人学生含む)	学生
意見交換会参加費	7,000 円	3,500 円

- 学会大会ならびに意見交換会に参加をご希望される方は、以下の URL(STORES)から参加チケットを購入してください。(どちらも参加される方は、「入場チケット」と「意見交換会参加チケット」をご購入ください)
購入サイト <https://kst123.stores.jp/>
- 購入後、登録したメールアドレスにチケット(PDF)が届きます。
- 学会大会ならびに意見交換会へ参加される方は、受付でチケットの提示をお願いします。
- 現地での参加費の支払いはご遠慮ください。
- 領収書は後日、学会事務局よりメールにてお送りいたします。領収書の個別希望への対応はできません。
- 予稿集の URL もチケットに記載されています。

【大会会場案内(アクセスマップ)】



■新千歳空港からのアクセス

- ・ JR「新千歳空港駅」より快速エアポートに乗り、「新札幌駅」にて下車。札幌市営地下鉄東西線「新さっぽろ駅」より乗車、「西 11 丁目駅」にて下車後、1 番出口から徒歩 5 分

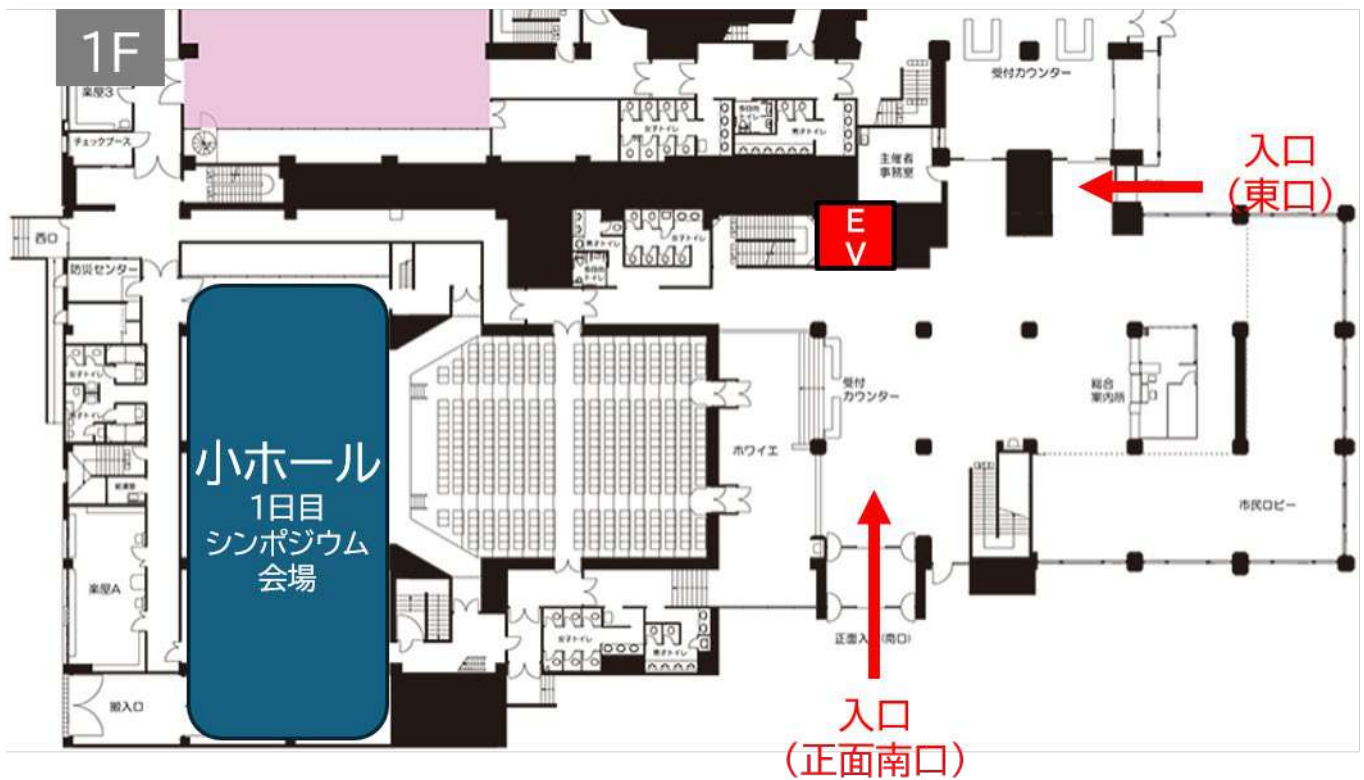
■JR 札幌駅からのアクセス

- ・ 札幌市営地下鉄南北線「さっぽろ駅」より乗車、「大通駅」にて東西線に乗り換え、「西 11 丁目駅」、1 番出口から徒歩 5 分
- ・ JR 札幌駅バスターミナルから、北海道中央バス(円山経由小樽行)、ジェイ・オール北海道バス(小樽行、手稲営業所、手稲鉾山行)に乗り、「北 1 条西 12 丁目」で下車、徒歩 1 分
- ・ 札幌駅南口 タクシー乗り場より、約 10 分

■大会会場から意見交換会 会場までのアクセス

- ・ JR 北海道バス 55 系統(札幌駅前行)・北海道中央バス(札幌駅前行き)「北 1 条西 12 丁目」から乗車、「北 1 条西 4 丁目」で下車、徒歩 3 分
- ・ タクシー乗車 5 分
- ・ 徒歩 18 分(1.3km)

【大会会場案内(会場内)】



- ・ 1階小ホールは10/24(土)午後の公開シンポジウム会場となります。



- ・ B会場は1日目と2日目で異なります、2日目のB会場は301号室となります。
- ・ A会場とC会場は両日とも変更ありません。
- ・ ロビー等は共用スペースのため受付等は3階の305会議室前となります。



- ・ B会場は1日目と2日目で異なります。
- ・ ポスター発表会場はギャラリースペースと402号室となります。

【学会に参加する全員の方に対する諸注意】

- チケットの購入は必ず事前に行ってください。
- オンラインでの中継はありません。
- 大会参加受付は、3階 305号室前です。お越しの際は、受付にてチケット(電子または印刷したもの)を提示し、会場内では必ず名札ホルダーを着用ください。
- 本会場では、来場者向けの有線・無線LANサービスの提供はございません。
- 学会大会で使用する(指定された)会場以外の場所には、絶対に入室しないでください。
- 発生したごみについては、各自でお持ち帰りいただくようにお願いします。
- 貴重品の管理は各自の責任においてお願いいたします。万が一、盗難等の被害が発生しても、大会実行委員会では一切の責任を負えません。

【口頭発表される方全員に対する諸注意】

- 発表で使用するPCやコネクタ(会場ではHDMI端子利用可)等は各自でご用意ください。実行委員会では機材貸出・技術的サポートの用意はありません。
- なお、各セッションの開始前に会場機材との接続を必ず確認していただきますようお願いいたします。
- 発表1件につき、10分発表+5分質疑です。各セッションの最後に15分の総合討論の時間を設けます。なお、時間経過は以下のタイミングでお知らせしますが、念のため、お手元等でも計測をお願いします。
 - 8分 1鈴
 - 10分 2鈴(発表終了)
 - 15分 3鈴(質疑応答終了)

- 動画を流す場合は、なるべくパワーポイントに埋め込む形にしてください。
- 優れた口頭発表には、「優秀発表賞」を授与いたします(若手研究者・学生(40 歳以下)が対象)。表彰式は 2027 年 3 月 13 日・14 日に開催される第 34 回大会で行う予定です。なお、過去に阿部賞／河田賞／若手研究発表会・若手発表奨励賞(2021 年 4 月開催)／学会大会優秀発表賞を受賞した方は対象外となります。
- 発表を辞退する場合も、学会大会実行委員会・研究発表担当まで必ずご連絡ください。

【ポスター発表される方全員に対する諸注意】

- 発表者には、受付時に「発表者リボン」と貼付用品をお渡しします。発表終了後、受付にご返却下さい。ポスターの掲示位置は、4 階ギャラリースペース・402 号室(サイズ:縦向き 高さ 210cm×幅 90cm)に貼付された「発表番号」で確認してください。「発表番号」はプログラム内で指定しますので、各自ご確認ください。
- ポスター発表の時間は「前半」と「後半」で設定しています。「前半」または「後半」のいずれかに在席責任時間を指定します。発表者は、指定された在席責任時間には発表者リボンをつけて、ポスターの前で参加者からの質疑に応じて下さい。在席責任時間は学会大会実行委員会が指定します。
- 発表後、ポスターは 1 日目(10/24(土))のうちに撤去してください。
- 必要に応じて当日、追加資料は各自で必要部数を用意してください(学会の方ではコピー等を行いません)。ただし、発表会場での机の利用はできません。電源も使用できません。
- 優れたポスター発表には、「優秀ポスター発表賞」を授与いたします(若手研究者・学生(40 歳以下)が対象)。表彰式は 2027 年 3 月 13 日・14 日に開催される第 34 回大会で行う予定です。なお、過去に阿部賞を受賞した方は対象外となります。
- 「優秀ポスター発表賞」の審査希望者は、10 月 16 日(金)までに大会委員会宛(jasdis.taikai@gmail.com)にポスターデータの PDF をお送りください(締切厳守)。

お困りの際は、以下まで連絡をください。

学会大会実行委員会・研究発表担当 jasdis.taikai@gmail.com

日本災害情報学会 第33回大会 公開シンポジウム

JASDIS THE 33RD ANNUAL CONFERENCE OPEN SYMPOSIUM

日本災害情報学会 第33回学会大会 公開シンポジウム

一般参加可能

参加費 無料

シンポジウムテーマ

災害報道のこれまでとこれから ～有珠山噴火から北海道の大規模災害を踏まえて～

1977年の有珠山噴火からまもなく50年。火山災害をはじめ風水害・地震など多様な災害を経験してきた北海道において、行政・科学者・マスメディア・住民の連携と役割を振り返ります。有珠山噴火の現場で対応した科学者の基調講演と、道内テレビ各局の報道担当者による議論を通じ、これからの時代に求められる災害報道と行動促進のあり方を探ります。

日時 2026年10月24日（土）
14:40～17:40

会場・対象 札幌市教育文化会館 小ホール（札幌市中央区北1条西13丁目）
対象：研究者、行政職員、報道関係者、地域防災関係者、学生、一般市民の皆様

■ プログラム構成 ※都合により内容・登壇者が一部変更となる場合がございます

14:40 - 14:50 開会挨拶・趣旨説明 矢守 克也 日本災害情報学会 会長 / 京都大学防災研究所 教授

基調講演 14:50 - 15:30（40分）

演題：有珠山噴火の現場から見た災害対応と災害報道（仮題）

講師：岡田 弘 北海道大学 名誉教授

有珠山の1977年噴火と2000年噴火における災害対応の違い、行政・科学者・マスメディア・住民が果たした役割と課題、そしてこれからの展望について現場での実体験をもとにご講話いただきます。

パネルディスカッション 15:30 - 17:00（90分）

テーマ：北海道の災害報道はどう変わり、どう変えていくのか

【モデレーター】 吉本 充宏 山梨県富士山科学研究所 研究管理幹

【パネリスト】 岡田 弘 北海道大学 名誉教授 / 基調講演講師

宮村 淳一 元気象庁札幌管区气象台

菅井 賢治 NHK日本放送協会札幌放送局 メディアセンター長

大佐 賢 南 HBC北海道放送 報道部防災担当デスク

百瀬 秀樹 STV札幌テレビ放送 報道部災害担当キャップ

向田 陽一 UHB北海道文化放送 役員待遇・報道・AI担当 ※オンライン登壇

17:00 - 17:15 会場との質疑応答（15分）

17:15 - 17:20 閉会挨拶

■ 会場案内・アクセス

札幌市教育文化会館 小ホール

〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西13丁目

・地下鉄東西線「西11丁目駅」1番出口より徒歩約5分 / JR「札幌駅」よりタクシー約10分・市電「西15丁目」停留場より徒歩約10分

■ 主催

日本災害情報学会

第33回学会大会 実行委員会

※事前申込不要・直接会場へお越しください

●発表スケジュール(簡易版)

日本災害情報学会第 33 回学会大会プログラム

1 日目(10 月 24 日 09:45 受付開始:3 階 305 号室前)

	A会場(講堂)	B会場(403 号室)	C会場(305 教室)
セッション 1 10:15-12:00	風水害① 座長:本間 基寛	情報技術 座長:佐藤 良太	災害対応① 座長:地引 泰人
昼休み			
ポスターセッション 13:00-14:30	ポスターセッション (4 階ギャラリー、402 号室)		
公開シンポジウム 14:40-17:00	公開シンポジウム(1 階 小ホール)		
意見交換会 18:15-	札幌グランドホテル東館 3 階 GINSEN (札幌市中央区北1条西4丁目)		

2 日目(10 月 25 日 9:30 受付開始:3 階 305 号室前)

	A会場(講堂)	B会場(301 号室)	C会場(305 教室)
セッション 2 10:00-11:45	風水害② 座長:福島 隆史	地震① 座長: 平山 修久	災害対応② 座長:吉本 充宏
昼休み			
セッション 3 12:45-14:15	避難 座長:廣井 慧	地震② 座長: 水野 一成	災害対応③ 座長:佐藤 翔輔

●口頭発表スケジュール(一覧)

日時	セッション・時間	会場	セッション名	座長	タイトル	氏名	所属
10月24日	セッション1 10:15～12:00	A会場 講堂	風水害①	本間基寛	新たな防災気象情報の運用開始に向けてテレビはどう解説したか——LLMを用いた内容分析——	福山佳那	東京大学大学院学際情報学府・株式会社ウェザーマップ
					災害初期の意思決定を支援する災害情報共有3次元プラットフォームの構築	小林実和	国際航空株式会社
					タイムラインにおけるタイムラインステージ活用の意義—警戒レベルとの相違点から—	山本 由佳	環境防災総合政策研究機構(CeMI)
					防災気象情報と避難情報の紐づけを機能主義的メディア論から解釈する	本多 祥大	日本大学法学部新聞学科
					レベル3土砂災害警報と大雨警報(土砂災害)の運用等の比較	向井利明	名古屋地方気象台・静岡大学防災総合センター
					気象庁時系列情報の精度検証(序報)	本間基寛	一般財団法人日本気象協会・静岡大学防災総合センター
	セッション1 10:15～12:00	B会場 403号室	情報技術	佐藤良太	映像を活用した防災啓発活動の設計に関する研究	小田部 章介	宇都宮大学大学院博士前期課程地域衛生科学研究科
					空間特性に基づく地下施設の分類に関する研究	高井和典	日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学専攻
					林野火災からの避難を円滑にする行政対応の検討—令和7年大船渡市林野火災を対象として—	後藤 裕瑛	東京大学大学院 工学系研究科
					因果ネットワークを用いた後発ハザードの影響分析	堀崎 流	東京大学大学院 工学系研究科
					復興地域の訪問者推定に向けた疑似人流データによる時空間系列モデルの段階的転移学習	三浦瑞貴	東京大学大学院学際情報学府
					ローンを付いた野生鳥獣(クマ)の早期発見および非侵襲的経路行動制御に関する実証研究	吉川 文隆	国土院大学 防災・救急救助総合研究所
	セッション1 10:15～12:00	C会場 305号室	災害対応	地町泰人	災害連鎖ネットワークの構造と複数主体による介入判断に関する基礎的分析	井澤 佳慶	東京大学 先端科学技術研究センター
					災害情報の事後検証可能性に関する一考察—令和8年熊本地震における停電情報を事例として—	坂東 淳	徳島大学環境防災研究センター
					2次避難所における空間配置と動線に関する事例研究—令和6年能登半島地震における広域避難者受入施設を対象として—	柴野裕行	吹田市総務局危機管理室
					中間支援組織は必要か?—不変ではないか?との発疑—	高田 昭彦	復興ボランティアネットワークス 代表 富士フィルム ビジネスイノベーションジャパン 勤務
					「防災と倫理」について考えるための3つの視点	矢守亮也	京都大学防災研究所
					放射性物質汚染事故の調査研究:インドネシアのチカン工業団地を事例として	地町 泰人	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター
10月25日	セッション2 10:00～11:45	A会場 講堂	風水害②	福岡 隆史	災害情報によって命を守る機能は失うのか—災害報道研究アーカイブによる1959年伊勢湾台風報道の検証分析—	芥田 季美治	株式会社ヒンメル・コンサルティング
					令和8年度からの新しい気象情報—令和5年6月の愛知県豊田豪雨に適用すると、どう変わるか—改訂部分は、今年度の出水期でどう運用されたか	高瀬邦夫	名古屋大学 減災連携研究センター
					「新たな防災気象情報」の2ヶ月を振り返って	牛山素行	静岡大学防災総合センター
					人流データを活用した水害時避難行動の広域比較分析と社会実装に向けた課題の整理	牛房 佳典	NTT東日本株式会社 防災研究所
					伊勢湾台風における名古屋市の広域活動と教訓の継承	黒田洋司	(一財)消防防災科学センター
					土砂災害のレベル3警報・レベル4危険警報の発表状況を探る—避難情報への影響をみる材料として—	福岡 隆史	TBSテレビ 創設報道本部 報道局
	セッション2 10:00～11:45	B会場 301号室	地震①	平山 修久	北海道・三陸沖後発地震注意情報への住民対応の変化—宮城県における2回の協議調査とパネル分析—	新家吉奈	東北大学災害科学国際研究所
					発話分析からみた災害対策本部会議の機能—石川県・熊本県災害対策本部会議の比較—	堀津 達哉	吹田市
					近年発生した大規模地震における誤情報拡散状況の比較	川村 壮	北海道大学 広域複合災害研究センター
					日本海中部地震40年特報からみる地方局の役割—公共放送と民放平成新居の比較から—	中島 千歩	東京大学大学院 学際情報学府社会情報学コース 総合調査研究室
					2025年7月30日カムチャツカ半島付近の地震に伴う津波に関する住民調査について	荒木 優弥	環境防災総合政策研究機構(CeMI)・東京大学大学院学際情報学府
					令和8年熊本地震における応急給水拠点マップの実践	平山 修久	名古屋大学
	セッション2 10:00～11:45	C会場 305号室	災害対応②	吉本充宏	平成16年新潟中越地震におけるホテル等避難に関する研究——新潟県旅館ホテル組合への聞き取りから	鎌 康和	福島国際研究教育機構(F-RIE)・東京大学大学院学際情報学府
					生成AIによる災害クローズドからの推論対応生成と災害対応評価観点に基づくLLM-as-a-Judgeの適用	大野裕平	NTT東日本株式会社 防災研究所
					火災を想定した避難訓練の形骸化がもたらす効果と弱点—東京・北区小学校火災から見る—	杉浦 昌恵	愛知県立豊田工科高等学校 事務室
					大学職員における災害対応マニュアルの認知度とその関連要因	和喜 進佳	徳島大学 キャンパスライフ健康支援センター
					疾患・状態に応じた災害食は家庭に備蓄されているか	高橋 啓紀	徳島大学病院 循環器内科
					富士山の大型噴降降灰時における山梨県の避難の考え方—旧静岡本宿住宅への積灰実験結果を踏まえて—	吉本充宏	山梨県富士山科学研究所
10月25日	セッション3 12:45～14:45	A会場 講堂	避難	廣井慧	令和7年大船渡市林野火災の住民避難行動分析—住民の共助に着目して—	堀岡 祐太	東京大学 工学部都市工学科
					行動目的がらみた防災気象情報の時間スケールと利用者評価	内藤千晴	香川大学大学院 創発科学研究科
					災害時帰宅困難状況下における乳幼児を同伴する保護者の一時滞在施設に対する支払い意思額	高屋敷哲也	早稲田大学 データ科学センター
					高齢者における運動機能と 防災準備行動の関連性に関する研究	許諾誠	順天堂大学大学院 健康データサイエンス研究科
					水害ストーリー調査を通じた河川センシング情報の利活用可能性の検討	竹之内健介	香川大学創造工学部・名古屋大学減災連携研究センター
					災害情報システムの課題整理と目指すべき将来像の検討	廣井慧	京都大学 防災研究所
	セッション3 12:45～14:45	B会場 301号室	地震②	水野一成	災害映画大賞のメッセージ	森本 翔太	東洋大学大学院理工学研究科建築・都市デザイン専攻
					カムチャツカ半島地震における津波警報発表時のキャスターコメント分析—在阪テレビ局の放送内容から—	橋本晋悟	株式会社MBS 報道情報局報道センター(人と防災未来センター 特別研究調査員)
					北海道・三陸沖後発地震注意情報発表に関する陸前高田市民の意識調査について	中村 吉雄	陸前高田市防災局
					令和8年4月20日北海道・三陸沖後発地震注意情報発表直後の住民の反応	安本真也	東京大学大学院情報学環
					地震ハザード情報に人々は何を求めるか—J-SHIS利用者2,450人の利用目的別・地震発生前後比較—	田中勝也	滋賀大学・防災科学技術研究所
					大規模地震後の災害リスクの変化に対応した緊急対応タイムラインの策定と効果—平成30年北海道胆振東部地震後の厚岸町の取り組み—	広田 達郎	環境防災総合政策研究機構(CeMI)
	セッション3 12:45～14:45	C会場 305号室	災害対応③	佐藤理輝	災害情報のSNS発信・拡散行動における情報源の 違いと発信者特性—発信目的、防災アラサー、情報活用実践力、メディア接触頻度の分析	水野一成	NTTドコモ モバイル社会研究所
					愛知県警察災害警備訓練の総合図上訓練におけるDSG-SIMの活用	塚本純也	芝罘工業大学 理工学研究科
					水害時における洪水道路検出による救援ルート選定支援—深層学習を用いた洪水域の抽出	山口裕基	千葉科学大学大学院 危機管理理学研究科 危機管理学専攻 博士後期課程
					避難所運営ゲーム北海道版を活用した防災教育実践と検討—北海道道庁市の専門学生を対象として—	中野 佑美	北海道大学工学院
					防災情報による人々の状況認識の変遷過程	斎藤峻介	東京大学大学院 理工学研究科 都市環境デザイン専攻
					商業力被災地域における一次医療提供体制の再構築過程—浪江町・富岡町を対象とした研究	山田 拓実	東京大学大学院 情報学環
					VR空間における津波避難行動の疑似体験に関する予備実験:受動的体験と能動的体験の異なり	佐藤理輝	東北大学災害科学国際研究所

●口頭発表スケジュール(詳細版)

10月24日(土)10:15~12:00 セッション1

4階講堂(A会場)

A1 風水害①(座長 本間 基寛)

A1-1 新たな防災気象情報の運用開始に向けてテレビはどう解説したか——LLMを用いた内容分析——

福山 佳那 (東京大学大学院学際情報学府・株式会社ウェザーマップ)
安本 真也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)
関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

A1-2 災害初動期の意思決定を支援する災害情報共有3次元プラットフォームの構築

小林 実和 (国際航業株式会社)
島田 徹 (国際航業株式会社)
東出 成記 (国際航業株式会社)
堀 大一郎 (国際航業株式会社)
蓑田 玲緒奈 (株式会社 Octalab)

A1-3 タイムラインにおけるタイムラインステージ活用の意義—警戒レベルとの相違点から—

山本 由佳 (環境防災総合政策研究機構(CeMI))
広田 達郎 (環境防災総合政策研究機構(CeMI))
荒木 優弥 (環境防災総合政策研究機構(CeMI))
加村 邦茂 (環境防災総合政策研究機構(CeMI))

A1-4 防災気象情報と避難情報の紐づけを機能主義的メディア論から解釈する

本多 祥大 (日本大学法学部新聞学科)

A1-5 レベル3土砂災害警報と大雨警報(土砂災害)の運用等の比較

向井 利明 (名古屋地方気象台・静岡大学防災総合センター)
本間 基寛 (一般財団法人日本気象協会・静岡大学防災総合センター)
牛山 素行 (静岡大学防災総合センター)

A1-6 気象庁時系列情報の精度検証(序報)

本間 基寛 (一般財団法人日本気象協会・静岡大学防災総合センター)
牛山 素行 (静岡大学防災総合センター)
向井 利明 (名古屋地方気象台・静岡大学防災総合センター)

10月24日(土)10:15~12:00 セッション1

403号室(B会場)

B1 情報技術(座長 佐藤 良太)

B1-1 映像を活用した防災啓発活動の設計に関する研究

小田部奎介 (宇都宮大学大学院博士前期課程地域創生科学研究科)
近藤 伸也 (宇都宮大学大学院准教授地域創生科学研究科)

B1-2 空間特性に基づく地下施設の分類に関する研究

高井 和真 (日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学専攻)
星上 幸良 (日本大学理工学部海洋建築工学科)

B1-3 林野火災からの避難を円滑にする行政対応の検討 ―令和 7 年大船渡市林野火災を対象として―

後藤 裕瑛 (東京大学大学院工学系研究科)
尾崎 祐太 (東京大学工学部都市工学科)
四井 早紀 (東京大学先端科学技術研究センター)
廣井 悠 (東京大学先端科学技術研究センター)

B1-4 因果ネットワークを用いた後発ハザードの影響分析

塩崎 洸 (東京大学大学院工学系研究科)
井澤 佳織 (東京大学先端科学技術研究センター)
坂平 文博 (大阪工業大学情報科学部)
廣井 悠 (東京大学先端科学技術研究センター)

B1-5 復興地域の訪問者推定に向けた疑似人流データによる時空間系列モデルの段階的転移学習

三浦 瑞貴 (東京大学大学院学際情報学府)
関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

B1-6 ドローンを用いた野生鳥獣(クマ)の早期発見および非侵襲的逃避行動制御に関する実証研究

吉川 文隆 (国土舘大学 防災・救急救助総合研究所・一般社団法人 DEFLUS)
永沢 光 (阿仁マタギ打当班)
中島 正貴 (草加八潮消防局)

10月24日(土)10:15~12:00 セッション1

305号室(C会場)

C1 災害対応①(座長 地引 泰人)

C1-1 災害連鎖ネットワークの構造と複数主体による介入判断に関する基礎的分析

井澤 佳織 (東京大学先端科学技術研究センター)
塩崎 洸 (株式会社構造計画研究所)
坂平 文博 (大阪工業大学情報科学部)
廣井 悠 (東京大学先端科学技術研究センター)

C1-2 災害情報の事後検証可能性に関する一考察 ～令和 8 年熊本地震における停電情報を事例として～

坂東 淳 (徳島大学環境防災研究センター)

C1-3 2 次避難所における空間配置と動線に関する事例研究 ―令和 6 年能登半島地震における広域避難者受入施設を対象として―

柴野 将行 (吹田市総務部危機管理室)
有吉 恭子 (吹田市総務部危機管理室)
行司 高博 (公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)

C1-4 中間支援組織は必要か？ ―不要ではないか？との発疑―

高田 昭彦 (復興ボランティアタスクフォース 代表 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン)

C1-5 「防災と倫理」について考えるための 3 つの視点

矢守 克也 (京都大学防災研究所)

- C1-6 放射性物質汚染事故の調査研究:インドネシアのチカンデ工業団地を事例として
地引 泰人 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)
関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

10月25日(日)10:00~11:45 セッション 2

4階講堂(A会場)

A2 風水害②(座長 福島隆史)

- A2-1 災害情報はどこで命を守る機能を失うのか ―災害報道研究アーカイブによる 1959 年伊勢湾台風報道の接続分析―

齊田季実治 (株式会社ヒンメル・コンサルティング)

- A2-2 令和8年度からの新しい気象情報―令和5年6月の愛知県東部豪雨に適用すると、どう変わるか ―改訂部分は、今年度の出水期ではどう運用されたか

高瀬 邦夫 (名古屋大学 減災連携研究センター)

太田 純一 (豊田市役所)

平山 修久 (名古屋大学 減災連携研究センター)

- A2-3 「新たな防災気象情報」の 2 ヶ月を振り返って

牛山 素行 (静岡大学防災総合センター)

- A2-4 人流データを活用した水害時避難行動の広域比較分析と社会実装に向けた課題の整理

午房 佳貴 (NTT 東日本株式会社 防災研究所)

高崎 仁義 (NTT 東日本株式会社 防災研究所)

桜田 和明 (NTT 東日本株式会社 防災研究所)

井澤 佳織 (東京大学 先端科学技術研究センター)

四井 早紀 (東京大学 先端科学技術研究センター)

廣井 悠 (東京大学 先端科学技術研究センター)

- A2-5 伊勢湾台風における名古屋市の広報活動と教訓の継承

黒田 洋司 ((一財)消防防災科学センター)

- A2-6 土砂災害のレベル 3 警報・レベル 4 危険警報の発表状況を探る―避難情報への影響を考える材料として―

福島 隆史 (TBSテレビ 創域報道本部 報道局)

10月25日(日)10:00~11:45 セッション 2

301号室(B会場)

B2 地震①(座長 平山 修久)

- B2-1 北海道・三陸沖後発地震注意情報への住民対応の変化 ―宮城県における 2 回の協働調査とパネル分析―

新家 杏奈 (東北大学災害科学国際研究所)

佐藤 翔輔 (東北大学災害科学国際研究所)

今村 文彦 (東北大学災害科学国際研究所)

B2-2 発話分析からみた災害対策本部会議の機能—石川県・熊本県災害対策本部会議の比較—

塩津 達哉 (吹田市・関西大学大学院社会安全研究科)
有吉 恭子 (吹田市・関西大学)
柴野 将行 (吹田市・日本大学)
越山 健治 (関西大学)

B2-3 近年発生した大規模地震における誤情報拡散状況の比較

川村 壮 (北海道大学広域複合災害研究センター)
佐々木優二 (地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部)
橋本 雄一 (北海道大学大学院文学研究院)

B2-4 日本海中部地震 40 年特番からみる地方局の役割 —公共放送と民放平成新局の比較から—

中島 千歩 (東京大学大学院学際情報学府社会情報学コース関谷直也研究室)
関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

B2-5 2025 年 7 月 30 日カムチャツカ半島付近の地震に伴う津波に関する住民調査について

荒木 優弥 (環境防災総合政策研究機構(CeMI)・東京大学大学院学際情報学府)
関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)
安本 真也 (東京大学大学院情報学環)

B2-6 令和 8 年熊本地震における応急給水拠点マップの実践

平山 修久 (名古屋大学減災連携研究センター)
臼田裕一郎 (防災科学技術研究所)
芝 直之 (スマートインプリメント株式会社(名古屋大学減災連携研究センター受託研究員))
吉森 和城 (防災科学技術研究所)
上田 啓瑚 (防災科学技術研究所)
田口 仁 (防災科学技術研究所)
佐野 浩彬 (防災科学技術研究所)

10 月 25 日(日)10:00~11:45 セッション 2

305 号室(C 会場)

C2 災害対応②(座長 吉本 充宏)

C2-1 平成 16 年新潟中越地震におけるホテル等避難に関する研究——新潟県旅館ホテル組合への聞き取りから

鍵 慶和 (福島国際研究教育機構(F-REI)・東京大学大学院学際情報学府)
関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

C2-2 生成 AI による災害クロノロジーからの推奨対応生成と災害対応評価観点に基づく LLM-as-a-Judge の適用

大野 哲平 (NTT 東日本株式会社防災研究所)
高津 諭 (NTT 東日本株式会社防災研究所)
加藤 禎洋 (NTT 東日本株式会社防災研究所)
大牟禮萌実 (NTT 東日本株式会社防災研究所)
杉山 友理 (NTT 東日本株式会社防災研究所)
沼田 宗純 (東京大学生産技術研究所／大学院情報学環)

C2-3 火災を想定した避難訓練の形骸化がもたらす効果と弱点ー東京・北区小学校火災から見るー
杉浦 百恵 (愛知県立豊田工科高等学校事務室)

C2-4 大学職員における災害対応マニュアルの認知度とその関連要因

和喜 遥佳 (徳島大学 キャンパスライフ健康支援センター)
高橋 智紀 (徳島大学大学院医歯薬学研究部循環器内科学)
渡邊 毅 (徳島大学大学院医歯薬学研究部メディカル AI データサイエンス部)
石津 将 (徳島大学大学院医歯薬学研究部メディカル AI データサイエンス部)
清水真祐子 (徳島大学大学院医歯薬学研究部疾患病理学分野)
早瀬 純子 (徳島大学キャンパスライフ健康支援センター)
西尾よしみ (徳島大学キャンパスライフ健康支援センター)
武田 早苗 (徳島大学キャンパスライフ健康支援センター)
川口 博美 (徳島大学キャンパスライフ健康支援センター)
曾我部正弘 (徳島大学キャンパスライフ健康支援センター)
井崎ゆみ子 (徳島大学キャンパスライフ健康支援センター)
佐田 政隆 (徳島大学大学院医歯薬学研究部循環器内科学)”

C2-5 疾患・状態に応じた災害食は家庭に備蓄されているか

高橋 智紀 (徳島大学病院循環器内科)
渡邊 毅 (徳島大学大学院医歯薬学研究部予防医学分野)
清水真祐子 (徳島大学大学院医歯薬学研究部疾患病理学分野)
城 将 (徳島大学大学院医歯薬学研究部予防医学分野)
中本真理子 (徳島大学大学院医歯薬学研究部実践栄養学分野)
原 倫世 (徳島大学大学院医歯薬学研究部薬理学分野)
佐田 政隆 (徳島大学病院循環器内科)

C2-6 富士山の大規模降灰時における山梨県の避難の考え方ー旧耐震木造住宅への積灰実験結果を踏まえてー

吉本 充宏 (山梨県富士山科学研究所)
久保 智弘 (山梨県富士山科学研究所)
亀谷 伸子 (山梨県富士山科学研究所)

10月25日(日)12:45～14:30 セッション 3

4 階講堂(A会場)

A3 避難(座長 廣井 慧)

A3-1 令和7年大船渡市林野火災の住民避難行動分析ー住民の共助に着目してー

尾崎 祐太 (東京大学 工学部都市工学科)
後藤 裕瑛 (東京大学大学院 工学系研究科都市工学専攻)
四井 早紀 (東京大学先端科学技術研究センター)
廣井 悠 (東京大学先端科学技術研究センター)

A3-2 行動目的からみた防災気象情報の時間スケールと利用者評価

内藤 千晴 (香川大学大学院 創発科学研究科)
竹之内健介 (香川大学 創造工学部・名古屋大学 減災連携研究センター)

A3-3 災害時帰宅困難状況下における乳幼児を同伴する保護者の一時滞在施設に対する支払い意思額
寅屋敷哲也 (早稲田大学 データ科学センター)

A3-4 高齢者における運動機能と防災準備行動の関連性に関する研究
許 諾誠 (順天堂大学大学院 健康データサイエンス研究科)
姫野龍太郎 (順天堂大学大学院 健康データサイエンス研究科)
原田 静香 (順天堂大学医療看護学部)
町田 修一 (順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科)
櫻井しのぶ (順天堂大学医療看護学部)
隈丸加奈子 (順天堂大学大学院 健康データサイエンス研究科)

A3-5 水害ストーリー調査を通じた河川センシング情報の利活用可能性の検討
竹之内健介 (香川大学創造工学部・名古屋大学減災連携研究センター)
尾藤 愛美 (香川大学創造工学部)
内藤 千晴 (香川大学創発科学研究科)
間々瀬静真 (香川大学創発科学研究科)
中村 拓哉 (香川大学創造工学部)
石塚 正秀 (香川大学創造工学部)

A3-6 災害情報システムの課題整理と目指すべき将来像の検討
廣井 慧 (京都大学 防災研究所)
北村 和彦 (株式会社 NTT データ)
倉田 和己 (名古屋大学 減災連携研究センター)
萩行 正嗣 (株式会社ウェザーニューズ)
湯瀬 裕昭 (静岡県立大学 経営情報学部)
杉田 暁 (中部大学 理工学部)

10月25日(日)12:45～14:45 セッション3

301号室(B会場)

B3 地震②(座長 水野 一成)

B3-1 災害映画大賞のメッセージ

森本 翔太 (東洋大学大学院理工学研究科建築・都市デザイン専攻)
及川 康 (東洋大学理工学部都市環境デザイン学科)

B3-2 カムチャツカ半島地震における津波警報発表時のキャスターコメント分析—在阪テレビ局の放送内容から—

福本 晋悟 (株式会社 MBS 報道情報局報道センター(人と防災未来センター 特別研究調査員))

B3-3 北海道・三陸沖後発地震注意情報発表に関する陸前高田市民の意識調査について

中村 吉雄 (陸前高田市防災局・東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻)
佐藤 世一 (東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻)
関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

B3-4 令和8年4月20日北海道・三陸沖後発地震注意情報発表直後の住民の反応

安本 真也	(東京大学大学院情報学環)
石橋 真帆	(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)
作間 敦	(NTT データ経営研究所)
荒木 優弥	(特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構)
本多 祥大	(日本大学法学部新聞学科)
関谷 直也	(東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)

B3-5 地震ハザード情報に人々は何を求めるか—J-SHIS 利用者 2,450 人の利用目的別・地震発生前後比較—

田中 勝也	(滋賀大学・防災科学技術研究所)
土肥 裕史	(防災科学技術研究所)
岩城 麻子	(防災科学技術研究所)
中村 洋光	(防災科学技術研究所)
藤原 広行	(防災科学技術研究所)

B3-6 大規模地震後の災害リスクの変化に対応した緊急対応タイムラインの策定と効果 ～平成 30 年北海道胆振東部地震後の厚真町の取り組み～

広田 達郎	(環境防災総合政策研究機構(CeMI))
山本 由佳	(環境防災総合政策研究機構(CeMI))
荒木 優弥	(環境防災総合政策研究機構(CeMI))
起田 淳	(環境防災総合政策研究機構(CeMI))

B3-7 災害情報の SNS 発信・拡散行動における情報源の 違いと発信者特性・発信目的、防災リテラシー、情報活用実践力、メディア接触頻度の分析—

水野 一成	(NTT ドコモ モバイル社会研究所)
宮原 祐一	(NTT ドコモ モバイル社会研究所)

10月25日(日)12:45～14:30 セッション 3

305号室(C会場)

C3 災害対応③(座長 佐藤 翔輔)

C3-1 愛知県警察災害警備訓練の総合図上訓練における DSG-SIM の活用

塚本 純也	(芝浦工業大学理工学研究科)
藤田 楓	(芝浦工業大学システム理工学部)
市川 学	(芝浦工業大学システム理工学部)
前田 憲一	(愛知県警察警備部警部第二課)
渡邊 准	(愛知県警察警備部警部第二課)

C3-2 水害時における冠水道路検出による救援ルート選定支援—深層学習を用いた浸水域の抽出—

山口 裕基	(千葉科学大学大学院危機管理学研究科危機管理学専攻博士後期課程)
戸田 和之	(千葉科学大学大学院危機管理学研究科)

C3-3 避難所運営ゲーム北海道版を活用した防災教育実践と検討 —北海道登別市の専門学生を対象として—

中野 佑美	(北海道大学工学院)
加藤 知愛	(北海道大学北極域研究センター)

C3-4 防災情報による人々の状況認識の変遷過程

渡邊 峻介 (東洋大学大学院 理工学研究科都市環境デザイン専攻)
及川 康 (東洋大学理工学部都市環境デザイン学科)

C3-5 原子力被災地域における一次医療提供体制の再構築過程 —浪江町・富岡町を対象とした研究

山田 拓実 (東京大学大学院情報学環)
根本 豪己 (東京大学大学院工学系研究科)
鍵 慶和 (東京大学大学院学際情報学府)
開沼 博 (東京大学大学院情報学環・東日本大震災・原子力災害伝承館)

C3-6 VR 空間における津波避難行動の擬似体験に関する予備実験:受動的体験と能動的体験の異なり

佐藤 翔輔 (東北大学災害科学国際研究所)
新家 杏奈 (東北大学災害科学国際研究所)
千葉 智史 (日本総合システム株式会社仙台支社)
岡元 徹 (日本総合システム株式会社仙台支社)

●ポスター発表スケジュール(詳細版)

10月24日(土)13:00~14:30(コアタイム)

発表番号奇数者在席責任時間:13:00~13:45

発表番号偶数者在席責任時間:13:45~14:30

402号室・ギャラリー

P1 被害回避行動意図形成に資する目的地移動判断情報の検討

佐藤 良太 (I-レジリエンス株式会社)
阿部 健一 (I-レジリエンス株式会社)

P2 令和6年能登半島地震の被災地域における宿泊施設の対応課題の分析

中村 彩乃 (関西学院大学建築学部)
府坂 誠治 (能登町観光協会・民宿ふわ)
水元 圭介 (株式会社能登町ふれあい公社)
水上 志都 (海辺の古民家ホテル奥能登じろんどん)
上田 知史 (能登町役場)
照本 清峰 (関西学院大学建築学部)

P3 被災者支援業務における外部機関への業務委託に係る災害救助費の取扱い

菊地 祥吾 (吹田市危機管理室)
有吉 恭子 (吹田市危機管理室・関西大学)
柴野 将行 (吹田市危機管理室・日本大学)
越山 健治 (関西大学)

P4 強震動経験に関する市町村分布に関する研究

高橋 和瑚 (関西大学大学院社会安全研究科)
越山 健治 (関西大学)

P5 流通備蓄の実効性評価フレームワークの提案 ―4 軸評価と類型別情報整理による備蓄設計―

大牟禮萌実	(NTT 東日本株式会社防災研究所)
高津 諭	(NTT 東日本株式会社防災研究所)
加藤 禎洋	(NTT 東日本株式会社防災研究所)
大野 哲平	(NTT 東日本株式会社防災研究所)
杉山 友理	(NTT 東日本株式会社防災研究所)
沼田 宗純	(東京大学生産技術研究所・東京大学大学院情報学環)

P6 「不完全さ」を伝える「弱いコミュニケーション」

小林 靖悟	(京都大学大学院情報学研究科)
矢守 克也	(京都大学防災研究所)
中野 元太	(京都大学防災研究所)

P7 学校単位の集団避難における応援・受援の実態と課題 ―令和 6 年能登半島地震時の広域避難の一事例から―

有吉 恭子	(吹田市役所・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
齋藤 知宏	(吹田市役所・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
竹原 拓馬	(輪島市役所・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
西川 隆士	(芦屋市役所・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
永吉 正樹	(加古川市役所・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
白木 悠平	(茨木市役所・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
柴野 将行	(吹田市役所・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)

P8 避難情報の発令を支援する水害時の避難オペレーションの提案 ―人流データ分析結果の意思決定への組込と 2022 年 8 月大雨(山形県)への適用想定―

高崎 仁義	(NTT 東日本株式会社防災研究所)
午房 佳貴	(NTT 東日本株式会社防災研究所)
桜田 和明	(NTT 東日本株式会社防災研究所)
井澤 佳織	(東京大学先端科学技術研究センター)
四井 早紀	(東京大学先端科学技術研究センター)
廣井 悠	(東京大学先端科学技術研究センター)

P9 避難施設の運営における受入停止情報の告知タイミングに関する一考察

井澤 佳織	(東京大学先端科学技術研究センター)
-------	--------------------

P10 広域避難における社会福祉協議会の支援継続機能

齋藤 知宏	(吹田市総務部危機管理室・ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究戦略センター)
柴野 将行	(吹田市総務部危機管理室・ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究戦略センター)
行司 高博	(ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究戦略センター)
有吉 恭子	(吹田市総務部危機管理室・ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究戦略センター・関西大学)

P11 「段階避難」に関する国内及び国外研究の動向

則竹 桃実 (エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社)
井澤 佳織 (東京大学先端科学技術研究センター)
四井 早紀 (東京大学先端科学技術研究センター)
廣井 悠 (東京大学先端科学技術研究センター)

P12 防災啓発パンフレットの作成過程で啓発主体(自治体職員)が啓発対象(市民)の役割を演じることの意義

竹 順哉 (京都大学大学院情報学研究科)
矢守 克也 (京都大学防災研究所巨大災害研究センター)

P13 自治体における災害対応システムの現状と課題

行司 高博 (公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
伊藤 潤 (愛知大学国際コミュニケーション学部)
吉森 和城 (国立研究開発法人 防災科学技術研究所)

P14 システム内在的エントロピーを考慮した情報伝達モデルの構築——警戒レベル相当情報に注目して

本多 祥大 (日本大学法学部新聞学科)

P15 東日本大震災の在宅被災者にみる困窮過程の多様性と連鎖構造—石巻市・女川町 174 世帯の分析—

松家茉莉子 (徳島大学大学院 創成科学研究科)
上月 康則 (徳島大学環境防災研究センター)
松重 摩耶 (徳島大学環境防災研究センター)
伊藤 健哉 (一般社団法人チーム王冠)
井若 和久 (徳島大学人と地域共創センター)
山中 亮一 (徳島大学環境防災研究センター)

P16 令和 8 年熊本地震におけるライフラインの被害・復旧過程と分野間の影響—発災後 14 日間の公式資料に基づく分析—

羽田野拓己 (名古屋大学減災連携研究センター)
木作 尚子 (名古屋大学減災連携研究センター)
千葉 啓広 (名古屋大学減災連携研究センター・防災科学技術研究所)
幸山 寛和 (名古屋大学減災連携研究センター)
小沢 裕治 (名古屋大学減災連携研究センター)
都築 充雄 (名古屋大学減災連携研究センター)
平山 修久 (名古屋大学減災連携研究センター)

P17 災害対策本部運営シミュレーションゲーム「ここは災対本部」による自治体職員の気づきの分析

橋本 直也 (四日市市役所)
羽田野拓己 (名古屋大学減災連携研究センター)
人見 幸希 (四日市市役所)
榎並 克浩 (津島市役所)
芝 直之 (スマートインプリメント株式会社)
木作 尚子 (名古屋大学減災連携研究センター)
都築 充雄 (名古屋大学減災連携研究センター)
平山 修久 (名古屋大学減災連携研究センター)

- P18 災害ボランティアとはどのような人か？ ―かけもちボランティア論―
高田 昭彦 (復興ボランティアタスクフォース 代表・富士フイルムビジネスイノベーション 勤務)
- P19 広域避難で収集される避難者情報の項目に関する研究
永吉 正樹 (兵庫県加古川市・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
柴野 将行 (公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構・大阪府吹田市・日本大学)
行司 高博 (公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
有吉 恭子 (公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構・大阪府吹田市・関西大学)
- P20 保健所における保健医療福祉調整地域本部の組織構造に関する研究
柴田 敏之 (大阪府健康医療部)
鈴木 陽 (宮城県塩釜保健所)
劔 陽子 (熊本県阿蘇保健所)
西崎 公康 (浜松市健康福祉部)
吉見 逸郎 (国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所)
有吉 恭子 (吹田市総務部危機管理室・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
柴野 将行 (吹田市総務部危機管理室・公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
尾島 俊之 (浜松医科大学健康社会医学講座)
- P21 大阪・関西万博における雷対応の機能構造 ―公開資料に基づく大規模屋外イベントの事例分析―
田中 英人 (セコム株式会社 IS 研究所)
- P22 災害時応援協定の変化による災害の教訓の分析―令和6年 能登半島地震を事例として―
西川 隆士 (芦屋市役所防災安全課・ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 研究戦略センター)
行司 高博 (ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 研究戦略センター)
柴野 将行 (ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 研究戦略センター・ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 研究戦略センター・日本大学)
有吉 恭子 (ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 研究戦略センター・ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 研究戦略センター・関西大学)
- P23 石川県内市町の地域防災計画における広域避難の記載と職員の認識との比較
柴野 将行 (吹田市総務部危機管理室・日本大学・公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
行司 高博 (公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
有吉 恭子 (吹田市総務部危機管理室・関西大学・公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)
- P24 その水害は「大きい」のか「広い」のか ―新聞記事のローカル LLM による被害多様性の定量化―
松永 優飛 (大阪工業大学情報科学部)
廣井 悠 (東京大学先端科学技術研究センター)
田中 耕司 ((一財)河川情報センター)
坂平 文博 (大阪工業大学情報科学部)

- P25 災害時の防災系アプリ利用 ――令和 6 年能登半島地震を事例とした分析――
石橋 真帆 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)
- P26 令和 6 年能登半島地震後の自粛における補完行動の心理的メカニズム
LEE SEUNGMIN (東京大学大学院学際情報学府)
石橋 真帆 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)
関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)
- P27 分布からルールへ ―モンテカルロ試行と決定木による避難シミュレーション尾部事象の分析フレームワーク―
ルイス フィリップス ヘリヤント ゴサリ (大阪工業大学大学院情報科学研究科)
玉田 正樹 ((株)構造計画研究所)
坂平 文博 (大阪工業大学情報科学部)
- P28 災害廃棄物処理シミュレーションの意思決定支援化
芝 直之 (スマートインプリメント株式会社)
平山 修久 (名古屋大学減災連携研究センター)
- P29 令和8年熊本地震における民放ラジオの初動報道分析 ―約 30 分の放送内容から考察する可能性と限界―
福本 晋悟 (株式会社 MBS 報道情報局報道センター(人と防災未来センター 特別研究調査員))
- P30 緊急時を伝える文章の説得効果―文面提示による分散分析を用いた検討
福井 桃子 (東京大学大学院学際情報学府博士課程)
関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター)
- P31 企業における安否確認応答の時間特性―複数地震の応答率推移に対する数理モデル分析―
小濱 賢 (セコム株式会社IS研究所)
小松原康弘 (セコム株式会社IS研究所)
甘利 康文 (セコム株式会社IS研究所)
中村 宏一 (セコム株式会社IS研究所)
濱田 宏彰 (セコム株式会社IS研究所)
坂本 修一 (セコムトラストシステムズ株式会社)
- P32 赤外線カメラおよび指向性スピーカー搭載ドローンによる夜間クマ対策の有効性と運用課題
吉川 文隆 (国土館大学防災・救急救助総合研究所・一般社団法人 DEFLUS)
永沢 光 (阿仁マタギ打当班)
中島 正貴 (草加八潮消防局)